

# 砂と暮らし 砂に学ぶ

ITP  
だより

19

昨年の12月、シリア人の家庭で行われたイスラム教の犠牲祭に参加して来ました。犠牲祭とは、イスラム暦の第12月(巡礼月)の10日にメッカへの巡礼が終わったことを祝い、羊や山

## 犠牲祭



一般家庭で山羊を解体する様子。山羊をおさえ、ナイフを研いでいる

羊などの生贄を神に捧げるお祭り、その肉を家族や友人、また貧しい人々と分

け合います。

屠殺を見学するのは初めての体験でした。羊を地面

に横たえた状態で押さえつけ、頸動脈にナイフが当てる瞬間、私は全身を貫くような衝撃を受けました。

つい先ほどまで生きていた動物がこの瞬間に生を失い、食肉として解体され、夕食の食卓に並ぶのです。

店でパック詰め肉しか買ったことなかつた私も、その肉が家畜の命と引き換えに得られるものだと

いうことは当然知っています。

しかし、その実感は希薄で、「いただきます」と唱えるのも形だけになっていったように思います。屠殺の見学をして、あらためて生の意味を学び、食物に対する感謝の気持ちを持つことができました。

(鳥取大学大学院農学研究所学生・酒井裕和)

(水曜日に掲載)